

[成果情報名] **大果で果肉が濃黄色のキウイフルーツ新品種「さぬきゴールド」**

[要約] キウイフルーツ新品種「さぬきゴールド」は、「アップル系キウイフルーツ」に中国系キウイフルーツの雄系統（保存系統名：FCM-1）を交配して育成した品種である。大果で果肉は濃黄色を呈し、糖度が高く食味が良好である。育成地での成熟期は、10月中旬である。

[キーワード] キウイフルーツ、新品種、育種、早生、黄色

[担当] 香川農試府中分場・栽培担当

[連絡先] 0877-48-0731

[区分] 近畿中国四国農業・果樹

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

キウイフルーツは品種の多様性に乏しく、経済栽培されている品種は「ヘイワード」のみである。近年、諸外国から輸入されている「ホート 16A」は、果肉が黄色くて甘く、人気が高いことから、国産で食味に優れた黄色キウイフルーツの開発が強く望まれるようになった。そこで、良食味で果肉が黄色のキウイフルーツの育成を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 「さぬきゴールド」は、1990年に「アップル系キウイフルーツ」を種子親に用い、中国系キウイフルーツの雄系統（FCM-1）の花粉を交配して育成した品種である。
2. 1994年に初結果し、それ以降も選抜を重ねた結果、大果で食味が良く特徴的な外観であることが確認されたので、2003年3月に種苗法に基づく品種登録申請を行い、2005年3月に登録された。
3. 樹勢は強であり、「アップル系キウイフルーツ」や「ヘイワード」より強い。枝はよく伸長し、樹体も大きい。花穂の着生数は多く、側花の数もやや多い。育成地（香川県坂出市）における開花期は5月上中旬、成熟期は10月中旬であり、いずれも「アップル系キウイフルーツ」や「ヘイワード」より早い（表1）。
4. 果皮は褐色で、果形は短台形で特徴的な外観である。表面毛じの密度は粗と「ヘイワード」に比べて少なく、また脱落しにくい。果実重は平均174gと大果である。果肉は鮮やかな濃黄色を呈し、「アップル系キウイフルーツ」より黄色が濃い。5ヵ年平均の糖度計示度は17.7と「アップル系キウイフルーツ」に比べて1.2、「ヘイワード」に比べて3.8高い。クエン酸含量は0.40%と「ヘイワード」と同程度である。肉質は緻密で軟らかいため、風味、食味とも良好である。追熟は「ヘイワード」に比べて容易で、追熟処理後約7～10日で可食適期となる。貯蔵性は、「ヘイワード」より短く、5℃貯蔵で2ヶ月程度である（表2、写真1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 当面は香川県内のみで普及を図る。
2. 早生種であるため、授粉や収穫など管理作業の労働分散が可能である。
3. 開花時期は、「マツア」、「トムリ」等の一般の雄品種より7日程度早いいため、輸入花粉もしくは前年の冷凍貯蔵花粉の利用が必要である。
4. 収穫時期が遅れると樹上で軟化し始める。

[具体的データ]

表1 「さぬきゴールド」の樹体特性（香川農試府中分場、2000～2004年の平均値）

品種・系統	樹勢	発芽期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	花穂の 着生数	側花の数
さぬきゴールド	強	3/29	5/ 9	10/12	多	やや多
アップル系 キウイフルーツ	弱	3/29	5/10	10/21	やや多	やや多
ヘイワード	中	3/28	5/19	11/ 7	中	中

注) 調査方法は種苗特性分類調査報告書（キウイフルーツ）に基づく。

表2 「さぬきゴールド」の果実特性（香川農試府中分場、2000～2004年の平均値）

品種・系統	果皮色	毛じの密度	果形	果実重 (g)	果肉色	糖度計示度	クエン酸含量 (%)	追熟の難易	貯蔵性
さぬきゴールド	褐	粗	短台	174.4	濃黄	17.7	0.40	易	短
アップル系 キウイフルーツ	褐	無～ 極粗	球	117.5	黄緑	16.5	0.68	易	短
ヘイワード	緑褐	密	広楕円	111.7	緑	13.9	0.41	難	長

注) 調査方法は種苗特性分類調査報告書（キウイフルーツ）に基づく。

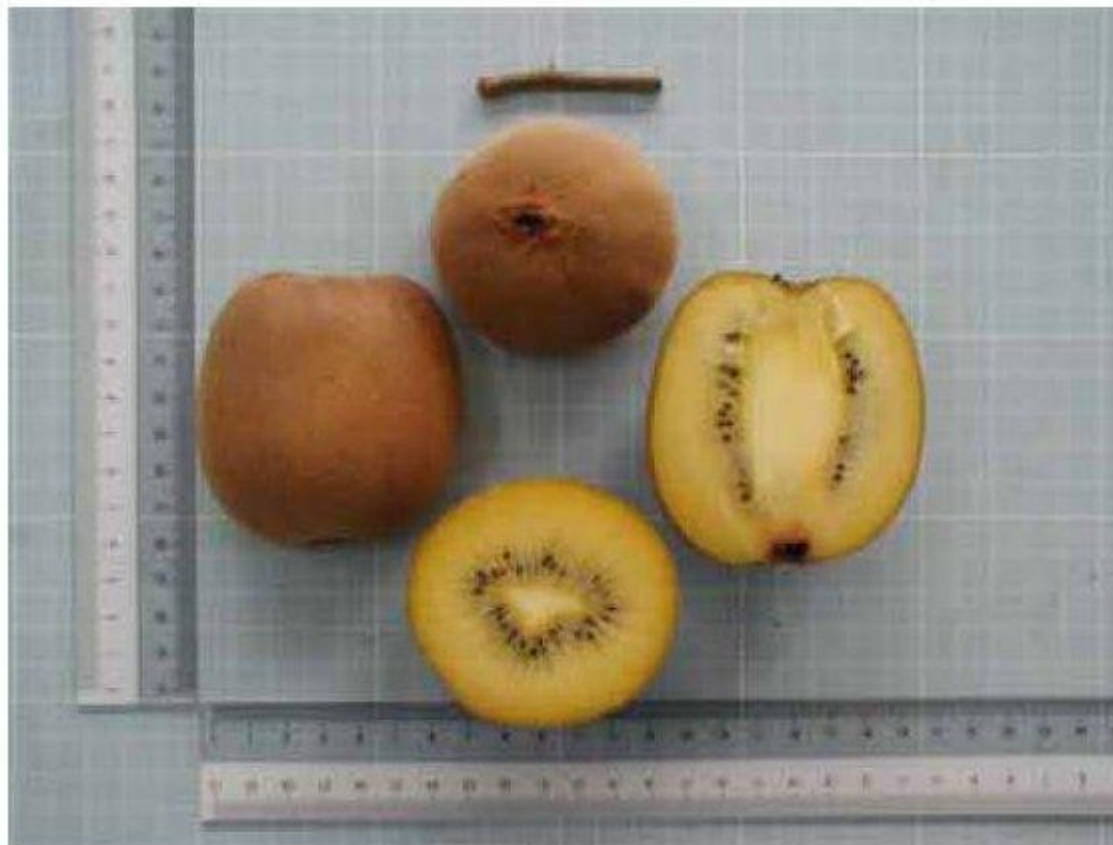


写真1 「さぬきゴールド」の果実

[その他]

研究課題名 : 果樹の高品質安定生産技術の確立

予算区分 : 県単

研究期間 : 1986年度～

研究担当者 : 福田哲生・山下泰生・坂下 亨

発表論文等 : 品種登録番号第 12984 号、登録年月日 2005 年 3 月 23 日、
福田ら (2004) 園芸学会中四国支部研究発表要旨 43 : 5.